

宮崎・妻北小学校敷地内遺跡
つまぎた

- 1 所在地 宮崎県西都市大字右松
- 2 調査期間 一九七三年（昭48）
- 3 発掘機関 （ブル建設工事中に発見）
- 4 調査担当者

- 5 遺跡の種類 不明
- 6 遺跡の年代 八世紀～一〇世紀
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

出土地点は、国指定特別史跡西都原古墳群が位置する台地の北東に連なる第二段丘、標高二〇～二六mにある。付近は、稚児ヶ池に



（妻）

発する浅い谷状地形の末端部となっている。現在は、西都市立妻北小学校のプールとなっている。木簡は、一九七三年のブル建設に伴い、重機によって掘削中に、須恵器、土師器、木器その他とともに、表土下約一・二mの黒色土層中から

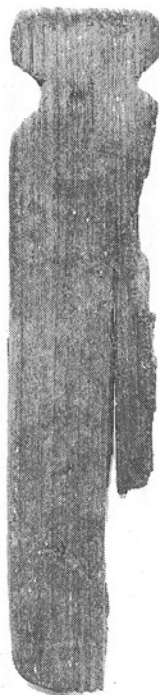
発見された。共伴遺物として、「真」の墨書のある須恵器の杯蓋、土師器の杯、線刻のある高台付碗、ヘラ状木器、二孔をもつ円形木器等が出土している。なお、木簡の出土は宮崎県内ではこれが初めてである。

8 木簡の积文・内容

(1) 「V」

112×23×5 032

赤外線写真、赤外線テレビカメラによる文字の読解を試みているが、不詳である。しかし、二ないし三文字が全幅いっばいに書かれていると推定される。材質はスギ材である。裏面は火を受けて炭化している。



（近藤 協）